

2020年12月24日

公益財団法人イオン環境財団

「君津イオンの森」に関する 協定締結について

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田 卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)は、12月24日(木)「モデルプロジェクトの森における森づくり活動」に関し、林野庁 関東森林管理局(局長 上大田 光成)との協定ならびに君津市(市長 石井 宏子)との覚書を締結します。

当財団は、森の再生を通じて地域創生に寄与するため「協定締結による国民参加の森づくり」制度を活用し、君津市の伐採跡地に新たなイオンの森づくりを推進してまいります。

森を再生するとともに、様々な森林体験ができるよう「君津イオンの森」のゾーニングを行い、植樹エリア地域の自然植生エリア、苗畑エリアを設けます。同時に、君津市の花であるミツバツツジをはじめ、千葉県に自生する17樹種を、5年間で計6,000本植樹予定です。

また、小中学生をはじめ、地域ボランティアの皆さまを対象に、森の整備や苗づくりなどの体験を通し森とのふれあいや環境教育の機会を創出します。さらに、リモートセンシングの技術を活用し、植樹後の森の状態を把握するための調査なども予定しています。

当財団は、本協定を機に、地域との連携をさらに強化し、次代を担う子どもたちに持続可能な地域と豊かな自然を引き継ぐため、今後も植樹をはじめとする環境活動を積極的に推進してまいります。

【協定概要】

- 目的: モデルプロジェクトの森において「君津イオンの森づくり」として、小中学校、NPO、NGO 関係行政機関及び有職者など、森と人の関わりを創出し、地域ボランティアの皆さまと 共に取り組む
- 期間: 2020年12月～2025年3月
- 場所: 千葉森林管理事務局 戸崎国有林(3.51ha)
- 活動: ①植樹 ②伐採 ③苗畑づくり ④竹柵づくり ⑤木工体験 など

以上

ご参考

■公益財団法人イオン環境財団について

1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと設立され、本年で30年を迎えました。時代とともに変化する環境課題に応じた事業を継続実施しており現在は「イオンの森づくり」・「助成」・「環境教育」・「パートナーシップ」の4事業を中心にステークホルダーの皆さまとともに環境活動を進めています。

＜公益財団法人イオン環境財団ホームページ : <http://www.aeon.info/ef/> ＞

■イオンの森づくり

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。これまでの30年間、世界11カ国で植樹を行い、イオンの累計植樹本数は1,212万本を超えています。

＜千葉県における森づくり＞



浦安市(2015年)



千葉市 富田都市農業交流センター(2016年)



千葉市 泉自然公園(2018年)



九十九里浜(2019年)

2013年～2015年 浦安市植樹

東日本大震災時の液状化で噴出した土砂の処理が深刻な課題となっていたことを受け、この土砂を土壌の盛土として活用する植樹活動を実施しました。2013年から2015年の3年間の活動を通じ2,100名のボランティアの皆さまと合計18,000本を植えました。

2016年～2018年 千葉市植樹

2016年に、千葉市富田都市農業交流センターで、第1回「千葉市植樹」を実施しました。地域ボランティアの皆さまやイオンチアーズクラブの子どもたちを含め、1,200名のボランティアの皆さまとクヌギ、コナラヤマザクラなどの広葉樹8,000本を植えました。第2回は2017年に、第3回は2018年に泉自然公園(千葉市若葉区)で、野鳥の森の再生を目指し、植樹を実施しました。2年間で1,600名のボランティアの皆さまと合計17,000本を植えました。

■イオンの里山づくり

時代に即した環境課題の解決を目指すため、2020年9月、早稲田大学内に「AEON TOWA リサーチセンター」を設立しました。本センターは、これまでの経験や知見、学術研究を統合し、持続可能な社会の実現を目指していくものです。森づくり、地域づくり、人づくりに取り組み「地球環境の持続性」「人と生活の持続性」「地域社会の持続性」という観点から、新たな「イオンの里山」の構築を目指します。